

[総説 Review article]

## 地域圏大学による国際連携活動

堀浩樹

三重大学大学院医学系研究科

### 要旨

日本の社会では、低出生率と人口構成の変化、大都市への人口集中、産業構造の変化が進み、経済や医療提供体制の地域間格差が拡大している。このような状況のなか、国の施策として“地域創生”が掲げられ、地方国立大学には地域社会と連携した人材育成や地域社会の持続発展に寄与する“知”の創出が求められている。また、大学は、教育カリキュラムの国際標準化や高等教育機関の国際的な序列化という外圧にも曝されている。

地域圏大学である三重大学では、地域の行政や産業界と連携し、地域社会の再生に貢献する学術活動に取り組んでいるが、地域圏大学であっても国際通用性のある教育研究の実施やグローバル人材の育成を忘れてはならない。グローバルに通用する視野と能力を持って地域に貢献する人材を育てること、すなわち“Think Globally, Act Locally”の実践こそが、地域圏大学の役割である。

医学部では、アジア・アフリカ諸国での大規模な臨床実習やアジアの大学で実践されている地域医療教育プログラムを学部教育に導入している。診療、研究活動においても母子保健や感染症対策に加えて、小児がん領域での国際連携への取り組みを開始している。日本では、年間約 2,000 人の子どもが小児がんに罹患し、その 80%に治癒を期待できる状況である。しかし、中低所得国での生存率は 20%程度にとどまっている。高所得国だけでなく中低所得国においても Non-communicable diseases の重要性が増しており、小児がん診療においても後発薬品を活用することで中低所得国での診療が可能になりつつある。

本稿では、三重大学における国際連携の取組みを紹介し、地域圏大学が地域への貢献を目指しながらもグローバルに通用する学術的活動を展開することの意義について解説する。

キーワード：地域圏大学、国際化、海外臨床実習、地域基盤型医学教育、小児がん

---

連絡先：堀浩樹

〒514-8507 三重県津市江戸橋 2 丁目 174 番地

三重大学大学院医学系研究科

Phone 059-231-6003

FAX 059-231-6013

E-mail hhorii@clin.medic.mie-u.ac.jp